新年に 年頭の

東通村議会議長
丹内俊範

新年明けましておめでとうございます。

村民の皆様におかれましては、令和4年の輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。

また、平素から村議会並びに村政運営に対しまして、温かいご支援ご協力を頂いておりますことに、衷心より厚くお礼申しあげ、東通村議会を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

昨年も新型コロナウイルスの影響により、様々な社会活動や教育活動が制限され、大変な一年となり、経済的にも大きな打撃を受けました。しかし、村民一人ひとりの感染対策やワクチン接種にご協力賜わり、感染拡大を防ぐことができました。全国的に見ると終息に至った状況にございませんので、引き続き「三つの密」の回避、マスクの着用、手洗いや手指消毒の励行、社会的距離の確保に努めて頂きますようお願い致します。

自然災害では、7月1日から3日にかけ、東海地方・関東地方南部を中心とした大雨は静岡県熱海市で土石流が発生し、甚大な被害をもたらしたほか、8月8日から9日の記録的な大雨で、むつ市・風間浦村は橋の崩落や土石流により、集落が孤立状態に陥る豪雨災害となりました。

東通村においても、11月2日から3日にかけての大雨により、白糠地区の道路が陥没、老部川内水面のサクラマス飼育施設の浸水や稚魚が流出するなどの被害が発生しました。降水量の地域的な変化や線状降雨帯の発生、高温、海洋熱などの異常気象が頻発しており、地球規模での温暖化対策が急務とされております。

我が村の基幹産業である第一次産業は、順調な天気に恵まれ、農業は水稲を中心に出来秋を迎え、畜産は依然として高値相場が続いておりますが、漁業にあっては主力であるスルメイカ漁やサケ漁は長期にわたって漁獲量が低迷し、漁業経営は年々厳しさを増しており、海域特性を生かした「つくり育てる漁業」のなお一層の推進を図る必要があると考えております。水産資源の減少に加え、燃油や資材の高騰など、沿岸漁業を取り巻く環境は依然として厳しい状況でありますが、魅力ある漁業、活力ある漁村となるよう漁業振興対策を展開して参りたいと存じます。

第六次エネルギー基本計画が閣議決定され、今計画では2030年度の電源構成として、再生可能エネルギーを大幅に積み増し、原子力を据え置きとする一方、火力を縮小するとされました。

東通原発においては、東北電力1号機が停止しており、東京電力1号機の本格工事も開始を見合わせた状況にあります。村議会は村民のご理解を頂きながら、国や事業者との信頼関係のもと、一貫して国策であるエネルギー政策に全面的に協力してきておりますが、原子力発電につきましては具体的な見通しが示されておらず、行財政はもちろん、地域経済への影響が年々深刻さを増し、非常に強い危機感を抱いております。今後も、より一層の安全性の確保を前提として、原子力発電所との共生による村づくりを進めて参る所存でありますので、皆様のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

第二次岸田内閣が発足しましたが、新型コロナウイルス感染症対策を始めとする経済対策など多くの課題が山積しております。村としても非常に厳しい経済環境と行財政状況は続きますが、村民の皆様と共にこの難局を乗り越え、行政課題を着実に解決していかなければならないと思っておりますので、引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村民の皆様の今年一年のご多幸を心よりご祈念申し上げまして、新年に当たってのご挨拶と致します。